

バグダッド 日 誌 (3月17日)

○ [] まもなく任務終了

3月1日にサマーワの日本隊を視察し、その素晴らしさに大変感動されていたMNC-I副司令官(行政担当) [] がバグダッドでの6ヶ月の勤務を終え2週間後に帰国されるそうである。少将曰く、「6ヶ月間のバグダッドでの勤務間にイラクに展開するほとんどのキャンプを視察して来たが、日本が一番だった。」と話しておられた。日本隊のサマーワ宿営地の評判はイタリアの将官(もう一人コアリション・オペレーション部長に [] がおり、このかたもサマーワを訪問している。)から噂が広がっており、バグダッドの将官がどんどんサマーワ訪問を希望しそうな勢いである。SNR会議で小野寺群長にお会いするのを楽しみにしていたようだが、今回は航空機の都合で来れなかった旨を伝えると大変残念に思っておられた。

[] は「次に来るのは俺の様な大男ではなく、少し小さいのが来るが...、日本隊を是非視察するように申し送るよ。」とにこやかに話しておられた。

(野崎)

○散髪

バグダッド連絡班で私以外は器用に自ら散髪しているが、私は前回自らバリカンで散髪しようとして、「虎刈り」ならぬ「パイナップル・ヘアー」となってしまったことを反省し、キャンプ内にある散髪屋に行くことにした。[] が「散髪しますよ。」と言ってくれるが、いつも遅くまで仕事をしてくれており、なるべく負担をかけたくなかった。キャンプ内にはパーバー・ショップとビューティー・ショップがあり、パーバー・ショップは3ドルだがいつも混んでいて、何も言わなければ丸坊主にされてしまう。ビューティー・ショップは一応女性兵士用らしく客の要望を聞いてくれる。時間のない男性兵士も流れて来ていて、値段は5ドルで少し高めである。(とはいえ日本の1000円散髪より安い。)散髪ぐらいで1時間も待たされるのはつらいのでビューティー・ショップで散髪してもらった。「サイド・イズ・ベリー・ショート」「トップ・イズ・ジャスト・トリム」と要望すると、ほぼ日本人が想像するスポーツ刈りとなった。これからは散髪に悩むこともないと「ほっ」としている。ちなみにこの散髪屋は、KBR(ケログ・ブラウン・ルーツ)という米軍を支援する民間会社が運営しており、理容師はインド人が中心である。お勘定の際は、散髪の基本料金に加えてカットしてくれた理容師に1~2ドル程度のチップをあげるのがスマートなようである。



バスラLO日々業務報告(3月17日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 [] (警戒態勢): []
2 特記事項	(1) [] (2) []
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集: [] (3) 定例会議への出席: 司令部朝・夕会議、J2・J3・J9認識統一会議 (4) 臨時情報要求・調整対応、MND (SE) 司令部からのサマワ訪問予定関連調整
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議参加
5 その他(備考)	